

しいのき

山崎家の男雛・女雛

名誉館長 三 隅 治 雄



振り返るともう11年になるんですね。当館から窓越しにのぞむ山崎家の庭を、散歩しておられた千枝夫人のお姿を見かけなくなって…。逢えば、暖かな笑顔で応対してくださった物腰の優しさが忘れられません。俳句に長年親しまれて「椎の実」という表題の句集を出版なさいました。「箒目の 五線の音譜 椎落葉」などの名句が印象的です。椎はもちろん庭にそそり立つ樹齢600年と称される名木です。その落葉を、毎日箒で集めると、土に五線譜のような箒目が残る。その線上へまた、葉が音符を書くようにハラハラと落ちて来る、という表現でしょうか。植物の動態を音楽で捉える感性のすばらしさを感じ入ります。1985年に94歳で他界されたご夫君の八代目当主喜作氏は、テニスの名手で、また浮世絵の蒐集などでも優れた審美眼をもつ風流人でした。拝顔の機会を逸しましたが、写真で見る気品高い温顔は、千枝夫人とまさに好一對の男雛女雛で、山崎家伝来の雛人形にお二人の姿を加えて恒例の雛人形展に飾れたらな、と想ったことでした。

▲江古田村旧名主・8代目 山崎喜作氏
(山崎邸庭にて 館蔵山崎家アルバムより)

文化財よもやま話

天神さま

通りゃんせ通りゃんせ ここはどここの細通じゃ

天神さまの 細道じゃ

この童謡を口ずさんだ方も多いでしょう。

来年は、優れた学者として、また政治家として平安時代に活躍した菅原道真（845～903）の没後1100年目にあたるそうです。「天神さま」として親しまれている道真は、その豊かな才能故に政敵に生まれ、讒言によって流された九州の大宰府で、悲しみの中生涯を終えました。直後から天変地異が起り疫病が続いたばかりでなく、政敵達にも不幸が相次ぎ、遂には御所へも落雷したので、人々はこれを道真の怨霊による祟りと恐れ、京都・北野に天満天神として祀り、その霊を慰めました。

元来“天神”とは、水を司る農耕の神でした。道真と結びついて学問・詩文の神とされ、天神画像・名号の前で歌合が行われたり、今では受験生の参詣姿が見られたりするようになりました。また、天神さまを象った郷土玩具も全国には多く、子供の節句に人形を贈る風習がある地域もあります。このように、御霊信仰の対象のみならず、文芸・行事の主人公として幅広く登場します。

中野区でも、「天神町」（打越天神（中野5））「天神山」（江原2）などの地名由来、祭礼・神事との関わりが着目されます。北野神社（新井4）では、道真の海上遭難を救った鶴を象った縁起物を交換し、悪い嘘を誠に替える鶴替行事が新年に行われています。ここには、若者が力比べに用いた力石が奉納されており、昔の娯楽・神事・通過儀礼の面影が窺えます。また、天満宮（現・北野神社（松が丘2））では、弓で的を射て農作物豊凶を占う御射射がかつて行われていたそうです。



豊饒と疫病退散を祈る人々の願いを聞き入れた天神さまの歴史と物語は、生活と密接しながら変容と展開を繰り返しています。

◀力石（新井北野神社）

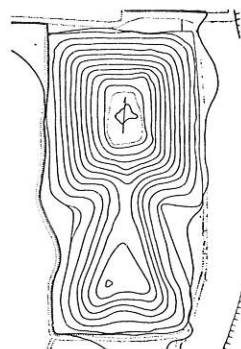
大地に眠る歴史

昔の人は遺跡をどう見たか(5)

わが国ではじめて発掘調査が行われたのは、いつ、どこで、誰が調査団長だったのでしょうか？

栃木県那須郡湯津上村には、文字が刻まれた不思議な石柱があります。これが国宝「那須国造碑」です。文字の内容は、この地域の豪族が那須郡の評督（今でいう県知事）に任命されたことを記録した7世紀末の大変貴重なものです。その重要性を見極めたのが、かの水戸黄門、徳川光圀です。

さて、この地域には昔から上侍塚・下侍塚と呼ばれる2基の全長100mクラスの古墳が知られています。黄門様は、石碑に書かれた豪族はこの二つの古墳のどちらかに葬られているかもしれないと考えたのです。そこで、発掘調査が行われることになったのです。調査体制は、現代風に言えば、調査団長：徳川光圀、主任調査員：佐々宗淳（助さんのモデル）、調査員：大金重貞（湯津上村名主）、といったところでした。



上侍塚古墳

調査は、今から309年前、1692年に埋葬施設を中心に行われ、遺物の出土位置や個々の図・数量・種類などを記録し、現在の調査精度に近いものでした。また、何よりも驚かされるのは、個々の遺物を葵の紋のついた漆箱に納め元の場所に埋め

戻したことです。現代の遺跡保存の考え方にも一石を投じる、真摯な姿勢を見ることができます。

遺物は、銅鏡・石の腕輪・管玉・鉄の矢じり・刀や甲や冑などが発見されています。

結果としては黄門様の期待に沿うものは出土しませんでした。現在では、これらの古墳は、4世紀代の前期古墳で、年代としても那須国造碑とは無関係なことが明らかにされています。しかし、たとえそうであっても黄門様の描いた歴史ロマンが、世界的にも古い学術目的の発掘調査であるという評価に結実したのは、おおきな成果であったといえるでしょう。（つづく）

＝特集＝

醤油屋の椎の木が見てきた山崎家

中野区立歴史民俗資料館の正式名称に冠する「山崎記念」は、江古田村の名主や戸長を務めた旧家・山崎家をさしています。寛延3（1750）年に分家した初代・喜兵衛から始まり、代々農業のかたわら質屋・醤油屋、明治時代には製粉業などの商業を営んで、財と政治力を築きました。



昭和59（1984）年、8代目の喜作・千枝夫妻が、「中野の郷土の歴史を後世まで伝えるのに、財産を活用して欲しい」と区に土地と貴重資料を寄贈され、平成元（1989）年資料館が開館しました。

「醤油屋の椎の木」として親しまれてきた邸内の椎の木は、樹齢500～600年と言われる中野区最古のもので、区や資料館のシンボルにもなっています。様々な歴史を見つめてきたこの椎の木を通して、中野の、そして山崎家の歴史と生活を見て行きましょう。

富貴不淫貧賤樂男兒
到此是豪雄

▲徳川斉昭の書（館蔵）

山崎家の歴史を語るには、椎の木にまつわる話を抜きにはられません。

中世からの古道として往来の多かった石神井街道は、農家が郊外と都内を往復して野菜や下肥を運ぶ道で、「椎の木坂」と呼ばれる由来になったこの道の椎の並木の根は、急な斜面を行く人々が腰をかけて休息するのに適していました。山崎家にて茶を作る人の柔道練習をここで目にして一念発起した横山作次郎は、当時有名になりました。

戊辰戦争（1868）の時、上野で敗れた彰義隊の残兵が石神井街道を通過方面に逃走した折、乱暴されることを恐れた沿道の人々が戸口を閉め、付近の雑木林に身を隠していたのに対し、山崎家当主は、椎の大木の根元で休んでいた兵の傷の手当をしたり、雑炊をふるまったりしたといます。その礼として「徳川家再興の時に持参すべし」と置いていったのが、湯島聖堂にあった九代目水戸藩主・徳川斉昭筆の軸です。

また、太平洋戦争（1941～1945）での空襲の際には、すぐそこまで迫っていた火も、椎の木のお陰で家は燃えずに済みました。

四方に伸びた枝葉は木陰を作り、風や火を防ぎながら、四季を通じて様々な表情をみせて人々に安らぎを与えてくれています。



▲山崎喜作氏と千枝夫人（館蔵・山崎家アルバムより）

—山崎家の四季と行事—

山崎家の稲荷神・「椎の宮」

昔農村だった江古田でも、五穀豊饒を祈るため屋敷神として稲荷社を祀る家が多く見られました。

山崎家にも椎の木の下に「椎の宮」と名づけられた小さなお宮（七代目が関東大震災〈1923〉後東側道沿いから奥庭へ移し、命名鎮座）が、太い椿の垣に囲まれてありました。毎年2月の初午や二の午の日には稲荷社の祭が行われ、近所や親戚の子供達が「正一位稲荷大明神」と大書した五色の紙の幟や、「文政八年二月」と染め抜かれた布製の幟を社前に立てたり、絵行燈を飾り、お神酒・赤飯や大太鼓を供えたといいます。また、社中には奉納された絵馬も飾られていました。

ムシロを敷いて御馳走をいただいたり、里神楽の真似や相撲をするなどして、子供達が闇夜になるまで椎の木の下で楽しんだというこのような祭の光景は、大正の初めまで見られたそうです。

現在はその稲荷神も移転され、面影も記憶の中にとどるのみとなってしまいました。

山崎喜作氏（1890～1985）は、町の発展とスポーツの振興に努力と貢献をする一方、テニス選手として活躍しました。明治末、田端に結成された社交クラブ「ポプラ倶楽部」には芸術や文学を語りテニスを楽しむ仲間が集い、優秀な選手も輩出されましたが、戦争で解散します。学生時代からテニスを始め倶楽部にも所属していた喜作氏は、昭和22（1947）年江古田にこのポプラテニス倶楽部を再興、野菜畑だった奥庭を整地した椎の下のコートで、多くの人々がテニスを楽しみました。

夫山崎喜作、奥村土牛、野上弥生子氏らとともに名誉郡民となる（昭和五十五年）三句

老木の椎の実捨はる大き掌に
古壺に黄菊たつぶり知事迎ふ
綿入れと着し夫縁にテレビ撮る

活動の功績を評価された喜作氏は、土地屋敷・文化財寄贈の念願を叶え、天寿を全うしました。

家屋敷を中野区に寄付 実り多き甲子の年行きにけり
夫、九十四歳にてみまかる（昭和六十年二月十二日）三句

梅開くすべて為終へて夫逝けり
納棺にラケット入るる浅き春
葬儀屋の顔の歪める余寒かな

今、そのコート跡に資料館は建てられています。

閉鎖せるテニスコートや梅雨採し



▲椎の下の椎の宮（館蔵・山崎家アルバムより）

山崎家の雛祭

人形の小さき口は春の来り

有力な商家として成長した山崎家には、江戸時代からの雛人形が伝えられています。当主夫人が中心になり親戚一同で行われる飾りつけは、大掛かりなものでした。

18世紀後半に流行し現在大名家に多く残されている、丸顔に引き目鉤鼻の次郎左衛門雛が、ここ山崎家にあるのも特徴です。

長き名の細き目の次郎左衛門雛

他に、古今雛、千枝夫人の父親が京都から取り寄せ嫁入りの際に持たせた雛や、御所人形・市松人形も伝えられています。



▲雛壇の前で（左・千枝夫人）〈昭和35〉
（館蔵・山崎家アルバムより）

江古田獅子舞と山崎家

区の無形文化財に指定されている江古田獅子舞は、都心部に残された貴重かつ代表的な民俗芸能です。

口碑では、鎌倉時代に御獄神社（大正2〈1913〉年氷川神社と合祀）と東福寺によって始められた病魔を退散させる祈祷獅子である、とされ、一方、山崎家文書の『獅子由来并大藏院起立書』では、江戸初期

に江古田村の新田開発を指導した伊勢国の修験者が彫った獅子頭で舞ったのが始まり、と伝えられています。また山崎家には、江戸末期に描かれた色彩画の「獅子行列図」絵巻や、天保4〈1833〉年に御三卿の田安侯が山崎家別邸にあたる杉雪館にて獅子舞を上覧した、という記録も残されています。

獅子頭をつけ太鼓を叩きながら踊る一人立ち三匹獅子は東日本に多く見られる形ですが、方位を司る青竜・白虎・朱雀・玄武の四神を配している点は、全国でも珍しい特徴のひとつです。



▲庭で舞う江古田獅子舞〈昭和10代〉
（館蔵・山崎家アルバムより）

現在でも、毎年10月第1日曜の氷川神社例大祭にて、旧名主・深野家から出発する獅子一行の華麗な行列や、神前で奉納される迫力ある舞を見ることができます。

満月や恋に狂へる獅子の舞

帯を呑む獅子のしぐさや月の下

月の下獅子の反り身に投銭とぶ

神への祈りとともに、人々の生活の中に生き続けた伝統の輝きは、郷土の誇りといえるでしょう。獅子舞お練り行列で（館蔵・山崎家アルバムより）▶



椎の木の軌跡

朝の庭椎の落葉の始まりぬ
帝日の五線の音譜椎落葉
落葉踏む一葉一葉に音生まれ
落葉焚きときどき椎の爆ぜる音
椎落葉寒山拾得常の顔
透ける傘紅き椿の門くぐる
画を愛し人を愛して藤見る腫
洗柿の葉つきの枝のぶら下げた
寒晴れや訪れるもの鶉・目白
春の夜のおのが町並み変貌す
落葉焚く煙いつしか月日過ぐ

庭園の「寒山拾得」像と椎の木▶



歴史民俗資料館の建設・造営にあたり、一部を伐採された椎の木は、その著しい環境条件の変化によって衰弱し、きのこが生えるという異常に見舞われました。そのため、平成3(1991)年延命のための本格的な治療が行われました。

診断をして下さった樹医・山野忠彦氏(1900~1998)は、日本樹木保護協会代表を務めた地域環境保全功労者です。戦後、病んでしまった神社・仏閣の古木・老木に心を痛め、樹医になることを決意、苦心の末に樹木の治療技術を開発し、1000本以上にわたる全国の名木・古木を治療して歩いた「木の名医」として有名になりました。

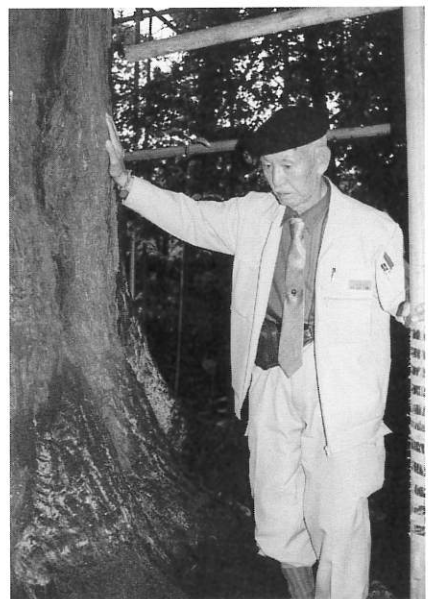
醤油屋の椎の木にも、幹の腐食・虫食い部分を削った後に消毒するという治療が施されました。

「木も人間と同じ“心”がある。」当時90歳の山野氏は、今なお元気でいられるのは、木から生命力をもらっているため、歳をとった木を大切に、生きる力を与えることによって自分も生かされているから、と述べました。樹木の魂を感じ、思いを込めながら仕事をする姿勢。それが雰囲気にもよく滲み出ている印象が心に残ります。

今ではすっかり元気に枝葉を広げる椎の木は、これからも中野の歴史を見続けていきます。

参考文献

- 『山崎家史料集』平野寛編 1966 山崎喜作
- 『山崎家文書1~5』多摩文化史研究会編 1992~96 中野区教育委員会
- 『山崎家資料図録』1989 中野区教育委員会
- 『中野区立歴史民俗資料館研究紀要Ⅰ』1992 中野区教育委員会
- 『中野の昔話・伝説・世間話』1987 中野区教育委員会
- 『続中野の昔話・伝説・世間話』1989 中野区教育委員会
- 『ふるさと中野の民俗と行事』1977 中野区教育委員会
- 『まつりと講』1979 中野区教育委員会
- 『エポックなかの歴史30選』1989 中野区教育委員会
- 『名誉都民小伝』東京都編 1981
- 『椎の実』山崎千枝 1987 牧羊社
- 『木の声がかきこえる』山野忠彦 1989 講談社
- 『醤油屋の稲荷さま』須藤亮作(『練馬郷土史研究』1966)



椎の木を診断する樹医・山野忠彦氏(平成3)▶

古文書つづり

ちょっとした 表現がもつ 時代性

本年度の企画展「うきしずみ 20世紀一紙とインクで百年間―」も、10月1日現在で第3期の展示をしております。日常の管理業務や展示替えをしていくなかで資料を改めて見ていきますと、その時代を映した表現が多いことに驚かされます。今回はその一例をとりあげてみました。

企画展第2期のテーマは“女性向け出版物”。少し前まで、女性雑誌の付録といえは料理本が一般的でした。小館も多数ご寄贈いただいており、まとまったコレクションとしては1925（大正14～'58（昭和33）年のものがあります。

個人的に最も意外だったのは、現在でもご馳走といえそうな品々が紹介されていることです。昔は今より貧相な食事…という紋切り型イメージにとらわれていたと反省させられました。また「中華料理」ではなく「支那料理」という表現がごく普通に使われているのも目をひきます。こうした

様子は日中戦争開戦（1937年）以降も変化ありませんが、戦争の長期化そしてアジア・太平洋戦争開戦と進んでいくにつれて少しずつ変化していきます。1938年には既に「非常時向の国策料理」と題し、'40年「節米料理と栄養パン」その翌年「国民料理」と、雑誌付録ですら標題がいかにめくなり、図らずも社会背景を反映しています。

ここでもう一つ注目したいのは、カタカナ語を「敵性語」として排斥しだすのが1940年からなのですが、それでもこの時“パン”はパンのままなのですが、それどころかカタカナ語がいきなり全て使用禁止になったわけではないのですね。

不確かなイメージだけで知っているようなつもりになってはいけなと、またまた反省です。



◀左から
昭和13・
14・15
15・16年
昭和17～
29年は資料を欠く

中野往来

役場跡の碑

野方町役場跡：野方5-3-7 野方ウイズ内

中野町役場跡：中央2-33宝仙寺内

今回は、区制施行三十周年を迎えるにあたり建てられた、明治・大正・昭和にかけて、中野の行政区画の変遷を物語る二つの碑を紹介します。

現在の中野区域は、江戸時代12の村でした。明治元年、江戸が東京と改められ、東京府が設置されると、12の村もそこに含められ、その後、品川県→東京府→神奈川県→東京府と何度も管轄が移り変わりました。

明治22年4月市制町村制の実施に伴い、中野・本郷・本郷新田・雑色の四か村が合併して中野村となり、江古田・上鷲宮・下鷲宮・新井・上高田・上沼袋・下沼袋の七か村が合併し、野方村となりました。

中野村では、明治28年宝仙寺境内に木造板葺きの二階建（約五十坪）の村役場が建てられました。中野村は明治30年に中野町となりますが、役場は増改築を重ね町役場としても利用され、さらに昭和11年まで区役所として使われ続けました。

一方野方村は、初代村長が現在の野方小学校前（野方二丁目）の民家を借り野方村役場を設置しました。二代村長は自宅（現在の野方六丁目）、三代村長は清谷寺内（沼袋三丁目）に役場を置き、四代村長の時、明治35年に村の中央にあたる現在の野方地域センターの地に民家を買って役場を設置しました。大正13年以降は野方町役場となり、昭和4年には、近代的な庁舎に建てかえられました。

その後、昭和7年10月1日豊多摩郡中野町と野方町が合併し、東京市に編入されました。中野町と野方町から一字ずつとって東京市中野区が誕生しました。

事業報告

各種事業経過

2001年4月～9月

事業名	内 容	期 間	
企 画 展	「五月人形展」	4/24～5/27	
	「うきしずみ 20世紀-紙とインクで百年間」	7/3～12/2	
	「春季所蔵名品展-江戸明治絵画の粋」	4/4～6/30	
	「夏季所蔵名品展-染付の美」	7/4～9/30	
歴 史 講 座	民俗学入門		
	「民俗学とは」	講師：内藤浩誉（当館専門研究員）	6/16
	「民俗芸能の世界」	講師：三隅治雄氏（当館名誉館長）	6/23
	「年中行事と日本人」	講師：内藤浩誉（当館専門研究員）	6/30
	「語りは生命の源」	講師：野村敬子氏（日本口承文芸学会会員）	7/7
	「通過儀礼にみる祈り」	講師：内藤浩誉（当館専門研究員）	7/14
古 文 書 講 座	入門コース	講師：大友一雄氏（国文学研究資料館助教授）	9/22～10/20
		講師：笠原 綾氏（日本放送協会学園専任講師）	毎週土曜5回
文化財調査	江古田・沼袋地域民俗調査	継続中	
	青梅街道周辺地区民俗調査報告書刊行作業	継続中	
埋 蔵 文 化 財	沼袋二丁目16番民有地立会い調査	4/4	
	本町六丁目16番民有地立会い調査	4/7	
	弥生町六丁目2番民有地立会い調査	5/16	
	新井三丁目10番民有地本調査（新井三丁目遺跡）	5/23～8/27	
	本町二丁目28番民有地試掘調査	5/25	
	松が丘一丁目10番民有地立会い調査	6/16	
	沼袋二丁目18番民有地立会い調査	6/16	
	本町五丁目34番民有地立会い調査	6/21	
	本町二丁目28番民有地本調査（成願寺北遺跡）	6/25～8/4	
	本町六丁目16番民有地立会い調査	7/10	
大和町四丁目14番民有地試掘調査（国庫補助対象事業）	7/13		
白鷺二丁目29番民有地立会い調査	8/29		
そ の 他	博物館実習：7大学7名	7/24～8/5	
	夏休み学習相談・体験学習（火おこし体験・石臼粉ひき体験）	夏休期間中	

寄贈資料一覧

2001.2月～5月
敬称略 受入順

資料名	点数	氏名
雑誌「太陽」	483冊	岩淵文人
おひなさま	一式	宮崎勝弘

蚊帳・そろばん	6点	中村美代
練炭火鉢	1点	市川栄司
内裏雛	2組	藤居真智恵

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

入館状況

2001年3月～8月（延152日間）（人）

一 般	社教団体	学校教育	合 計
14,131	279	922	15,332

発行年月日2001年10月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田 4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX03(3319)9119

(印刷物登録番号 13中教社第5号)